【平成 30 年度第 2 回小牧市障害者自立支援協議会会議録】

1. 開催日時 平成 30 年 10 月 15 日（月） 14：00～15：30
2. 開催場所 小牧市ふれあいセンター 3 階大会議室
3. 出席者（委員 13 名のうち、11 名出席）

（会長）	相山女学園大学 教授	手嶋 雅史	
（副会長）	小牧市社会福祉協議会会長	稲垣 喜久治	
（出席した委員）	小牧市民生委員・		
	児童委員連絡協議会会長	吉田 友仁	
	社会福祉法人あいち清光会		
	サンフレンド施設長	川崎 純夫	
	社会福祉法人アザレア福祉会		
	理事長	北澤 論	
	小牧市医師会代表	越後谷 雅代	
	愛知県春日井保健所 課長補佐	角田 玉青	
	愛知県立小牧特別支援学校校長	鵜野 裕志	
	春日井公共職業安定所		
（オブザーバー）	専門援助部門統括職業指導官	川島 さとみ	
	小牧市健康福祉部長寿・障がい福祉課長	山本 格史	
	社会福祉法人大和社会福祉事業振興会		
	ハートランド小牧の杜施設長	清水 龍司	
	尾張北部圏域地域アドバイザー	綱川 克宣	
	（事務局）	小牧市健康福祉部長寿・障がい福祉課	
		小牧市社会福祉協議会ふれあい総合相談支援センター	
	（同席）	就労支援連絡会代表 小牧ワイナリー	川原 克博
		日中活動系連絡会代表 本庄授産所	伊藤 茂
		生活介護ぽぽらす	秋山 敏之
相談支援事業所連絡会代表			
サンビレッジ障害者支援センター		篠塚 ユカリ	
相談支援事業ハートランド小牧の杜		木戸 明子	
サンフレンド障害者生活支援センター		中野 勝利	
地域活動支援センター本庄プラザ		水谷 研司	
尾張北部権利擁護支援センター		山中 和彦	

(傍聴者) 0名

4. 議事

- (1) 尾張北部圏域地域アドバイザーからの情報提供
- (2) 平成30年1月～7月事業報告
 - ・相談支援事業・・・P2、P3
 - ・各連絡会・・・P4～11
- (3) 報告についての協議、意見交換

5. 会議資料

次第

- P1 尾張北部圏域地域アドバイザーからの情報提供
- P2～9 平成30年1月から7月 各連絡会の事業計画進捗状況
- P10 平成30年度 小牧市障害者自立支援協議会事業進捗状況
- P11 小牧市「福祉・介護就職フェア」まとめ

6. 議事内容

(事務局)

只今から平成30年度第2回小牧市障害者自立支援協議会を開催させていただきます。

小牧市障害者自立支援協議会につきましては、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針により、公開とさせていただきます。

議事録につきましては、情報公開コーナー及び小牧市ホームページにて公開をさせていただきます。なお、本日の傍聴人は0名となっております。

委員の状況は、小牧市身体障害者福祉協会会長の谷会長が遅れる事と、小牧市手をつなぐ育成会会長の石原会長がご欠席です。

それでは、これより議事に入らせて頂きたいと思えます。

(手嶋会長)

それでは早速会議の方を始めさせて頂きたいと思えます。暑かった夏ですが、8月に中央省庁全体で3,460人の障がい者の不正雇用の水増しがあったという事で大きく世間を騒がせてしまいました。驚いたことは42年間に渡ってこれが行われていたという事で、42年前は障害者雇用促進法の障がい者雇用の義務化を始めた最初の年でありました。この法律が、スタートした時から不正をしてい

たことで、ショックを受けました。いろんな形で雇用率が段階的に国が上げて、民間の事業所の方は必死に障がい者の雇用の拡大と対応をしていた中で、どのような視点で今後こういった事を考えていけばいけばいいのか、私なりにも考えた期間でもありました。2013年に障がい者の権利条約を批准しようという事で、雇用促進法に障がい者の差別の禁止と合理的配慮の提供の義務を追記をして、新たな障がい者雇用の一步を踏み出したわけですが、割り当て雇用制度中に、差別解消のアプローチを入れて、差別されない雇用のありようを進めようとしていた矢先に、長年築いてきたはずの割り当て雇用が、データ自体も曖昧な形で、報告されたということには、今後障がい者の雇用に関して、不正ばかりに目をやるのではなくて、障がい者の差別や雇用のありようを置き去りにならないように、数合わせだけを国に何とかして欲しいとすると、差別解消アプローチの対応が置き去りになってしまう事が心配であります。是非そういった所のチェックや、ご感心やお気づきを自立支援協議会の中でご助言や、ご意見を頂きたいと思っておりますので、ご協力よろしく申し上げます。それでは、議事の方に入らせて頂きます。議題1の尾張北部圏域アドバイザーからの情報提供です。綱川アドバイザーの方からよろしくお願い致します。

(綱川アドバイザー)

資料の1ページ目をご覧ください。今年度のアドバイザー会議では地域移行の事を中心に取り上げております。地域移行は精神科病院や、障がい者の入所施設にいる方が、地域（在宅）での生活に戻ろうという動きを地域移行と言います。地域移行の中でも、今年度は精神障害者の地域移行と入所施設からの地域移行を重点検討事項として協議をしていきました。会議での検討内容や、そこから見える課題について報告致します。

① 精神障害者の地域移行について

精神障害者の地域移行は県内の各圏域との継続的な取り組みを実施しています。圏域によっては研修等を継続的行った結果、以前は地域移行の支給決定数が1~2件だったのが、20件程度まで伸びた圏域もありました。

今年度は「ピアサポーター」（当事者自身が支援者となって同じ疾患を持つ方を支える）というものを活用して、地域移行を後押しする圏域もあります。

他に、基幹相談センターが保健所の職員と一緒に病院訪問して、退院可能な方の把握をしている市町もあります。どこの市町も、社会資源不足による困難さには直面しているようです。

退院してもグループホームがなく、行き先がない等の困難に直面してい

るという事です。

また、医療機関によっては地域移行に消極的な精神科病院があり、退院を阻害する要因となっている圏域もあります。尾張北部圏域では、春日井保健所、江南保健所の2つがあります。両保健所が事務局となって、地域の相談機関を利用して地域移行に関する研修を実施してきました。今年度も効果的な取り組みを検討していますので、時期をみて、皆様に報告したいと思います。

② 障害者支援施設（入所施設）からの地域移行について

今年度は入所施設からの地域移行についても検討しています。こちらについては、どの圏域もかなり苦戦しているようです。その大きな理由として、自身で地域移行の意向を明確に表出できる方については、解消されており、現在入所施設に残っている方は高齢の方、非常に手厚い支援が必要な方だからです。そういった状況でも、愛知県の調査によれば、県内で177人の施設入所者が地域移行を希望していて、何かしらの支援が必要とも考えられます。

圏域によっては、今年度より国から打ち出された「市町によるモニタリングの検証」を通じて、施設入所者のニーズ等を再整理しようとする動きもあります。サービス等利用計画を3ヶ月や、半年や1年ごとに振り返ります。計画がどこまで達成できているのかを把握するモニタリングを今年度から、市町の中でも内容をしっかり検証してくださいという事が打ち出されました。本人のニーズを再整理しようという動きもあります。

③ 地域生活支援拠点の整備について

障がい者の重度化、高齢化や「親亡き後」を見据えた、「居住支援の機能強化」として、「地域生活支援拠点」の整備が障害福祉計画の中で打ち出されています。

地域移行ですが、この地域生活支援拠点の整備と深くリンクしています。地域生活をする際の課題やハードルが、地域生活支援拠点を考える際の材料の一部にもなり得るからです。

地域生活支援拠点そのものについて考えると、漠然としていてイメージが湧きにくいのが現実です。しかし、まずは「障がいのある方が、地域（在宅）生活を継続するのに、何が課題なのか」を考えることで、よりよい地域生活支援拠点の整備や運営に繋がっていくことと思います。

（手嶋会長）

ありがとうございました。①の精神障がい者の地域移行について角田さん追記はございますか。

(角田委員)

精神障がいの当事者、現に地域で生活している精神障がいの当事者の方と支援に携っている地域の支援者の方々、実際に精神科病院を訪問して入院中の患者さん達の前に、地域で生活をするという事を語って頂く事を、昨年度の事業として始まっています。まだ、尾張北部圏域では訪問実績はなく、今年度は是非「ピアサポーター」さんに訪問してしていただけるようお願いしている。地域の声を、病院に届けるという事を行っていきたいと思っています。

(手嶋会長)

それでは議題2の方の平成30年1月～7月の事業報告を進めていきます。相談支援事業と、各連絡会について長寿・障がい福祉課、そして各連絡会の代表の方から報告をして頂きます。よろしくお願い致します。

(長寿・障がい福祉課)

相談支援事業について報告させていただきます。資料2ページをご覧ください。上段の方に相談人数、下段の方に各相談支援事業所が特色や、傾向等をご載せさせて頂いております。上段の相談人数についてですが、網掛け部分が平成30年1月から7月までの合計となっております。その後には前年度の1月から7月の実績をご載せさせて頂いております。その中で、ハートランド小牧の杜を見て頂くと、相談人数が142名、前年度は224名、支援方法については前年度は939名に対して今年度は389名と減少しておりますが、相談員が2名が1名になった事で、件数の方が減ったと考えております。

全体の方を見て頂くと、障がい人数につきましては、障がい児、障がい者共に、微減となっております。支援方法につきましては、若干減少傾向になっておりますが、ハートランド小牧の杜の人員減少が関係してくるのかなと思っておりますが、それに代わりまして、サンビレッジが増えておりますので、サンフレンドの増加というのが、サンビレッジができた事が大きいのかなと思っております。

続きまして、下段の相談支援事業について、特色及び傾向ですが、ハートランド小牧の杜はやはり入所施設に入られる方が多いという事があると思っておりますが、親御さんの高齢化が進んでおり、入所を希望されているケースが増えてきているという事で、成年後見制度や身元引受人制度の問い合わせが増えてきています。また、自立支援に伴う就労や、住居についての相談があり、苦慮しているという事があります。

サンフレンドについては、サンビレッジが開所したことで、相談件数が増えてきています。地区が違う事もあり、サンビレッジに近い近所の方からの相談が増えてきています。医療的ケアを必要とする重症心身障害児のケースも少し

ずつ増えてきています。就労支援につきましては、精神障がいの方でトラブル等が出てきているという事もあります。

本庄プラザについては、電話での相談が多いという事で、精神障がいの方が多く、ちょっとした不安から電話をかけてきているのではないかと思います。

ハートランド小牧の杜でも出ましたが、親亡き後の財産管理などの相談に関しても今後も減っていく事はないかと考えています。さまざまな手続きや、こういった支援の方法があるのかという事で、今年度は権利擁護支援センターが出来まして、成年後見については強力的に後押ししてくれており、こういった物を活用していきながら障がい者の方が在宅で親亡き後を暮らしていけるように支援していければと思っております。

ふれあい総合相談支援センターについては、市内に計画を作成できる事業所が少なく、どの事業所も多くの利用者を抱えているためか引き継ぐことが困難であり、市外に引き継ぐケースが多くなっているという事があります。小牧市の計画相談支援事業所は基本的には他の福祉サービス事業所を兼ねられている事業所がほとんどと聞いています。そういった中で、まずは法人の利用者の計画を作っていくという所で、新規の方の受け入れが難しいのではないかと考えます。小牧市の特徴でもあります、外国籍の方の相談で、放課後等デイサービスなどのサービス調整では、市役所の窓口ですと通訳の方がいれば窓口対応として、通訳と一緒に対応している所ですが、事業所については通訳は難しく、今後この問題については考えていかなければならないと思っております。

(手嶋会長)

ありがとうございます。全体の報告を頂いてから質疑応答とさせていただきます。続きましては、就労支援連絡会についてよろしくお願い致します。

(就労支援連絡会代表)

計画としましては、事業の理解促進、就労施設への支援、障がい者雇用の推進、学校との連携と大きく計画が分けられます。現在の進捗状況ですが、障害者雇用支援月間（9月）時にポスター掲示とあります。これは各事業所の方にも配布済みであります。就労施設への支援、障がい者が働くガイドブックの更新・発行は、3月に更新しておりまして今年度も更新をしていくために、情報の発信をしているところです。障がい者雇用推進におきましては、一般企業に就職された方にアンケートを実施しております。障害者雇用推進セミナー開催については今年の2月に開催しております。今年度も来年の2月に開催予定です。学校との連携については特別支援学校との情報交換会の実施を1月17日に行いましたが、今年度は12月14日に特別支援学校でまだ進路が決まっていない生

徒さんがいらっしゃるところもあり、学校との情報交換会を行う事になっています。報告は以上になります。

手嶋会長がおっしゃったように、データが揃えばよいのかと個人的に委員の皆さんに問いかけたいと思います。なぜかと申しますと、数字は数字です。計画の数字がクリアーすればそれで良いのか、小牧市におきましては障がい者の数も限られた中で、データの数字上をクリアーしているという事は、計画推進しているという事になりますが、実際立ててる計画の内容を精査しましょうと問いかけをしていますが、残念ながら他の事業所からはそれに対しての答えがない所です。具体的にはポスターを事業所に配る、何枚どこに配ったか、10数ヶ所ある就労部会の事業所に貼ったただけでどれだけ周知になるか、どれだけ市民の皆さんの目に着くのかというのを精査しなければいけません。昨年度は情報を提供したという事で意味がありましたが、これを実際どのように周知を広めてくのかという次のステップを問われていますし、雇用推進に関しましても、アンケートをして現在就労している方の状況を把握した上で今後どういう推移が見越せるのか、そこにおける問題点はないのか。就労連絡会ではハローワークにも来て頂いており、ハローワークが持っている問題として、各事業所が就労の際に、どこまでフォローしてくれるのかなどの問い合わせがありました。それに対して、就労連絡会ではどこまで応える事ができるのか。障害者雇用推進セミナーでは一般企業の参加が減っているのはなぜかという、企業が求める人材と今いる人材とのマッチングや、今いる就労支援事業所の利用者が今後どのような割合で就職できるのかという、そこを見越した計画にしないといけない。その先において、5年、10年どのような計画が必要なのかというところまで落とし込む必要があると思っています。

実際、どういう権利を障害者の方は求めている、それが地域移行や、生活にどう繋がっていくのかというのが大事な所で、日中働くという概念や、それをサポートする体制はどうなのかという事が重要だと思っています。

(手嶋会長)

ありがとうございました。数字的な達成はあるけれども質のチェックという所は今後の課題だという事で丁寧にお話し頂きました。

続きまして日中活動系連絡会についてよろしくお願ひ致します。

(日中活動系代表)

日中系ですが、障がい者にとって安心できる居場所を確保できるという事を念頭に年間の計画が立っております。進捗状況ですが、福祉の人材の確保という所では、小牧市の公民館で5月31日に福祉・介護の就職フェアを小牧市の介

護サービス事業所連絡会の協力を得て開催しました。実施の報告については昨年までの代表が中心となって進められていましたので、昨年の日中活動系代表より、報告して頂きます。

(前日中活動系代表)

今年度は日中活動系連絡会のアンケートの中で、人材不足という課題があり日中活動系連絡会が中心となり就職フェアを5月31日に行いました。

6ページをご覧ください。行った内容としましては、市内介護保険サービス事業者連絡会事業所と合同で就職フェアを行いました。11ページのアンケートをご覧ください。24名が回答して頂いた中で、小牧市内の方が24名中16名という事で、かなり地域に密着できたのではないかとこの事が言えるかと思えます。また、出展法人のアンケート集計結果の一番下で、就職フェアのまとめとしまして、介護保険サービス事業者連絡会とコラボしたことで集客率は高まったのではないかと。来年度も介護保険サービス事業者連絡会も全員参加したいという意見があり、一緒にコラボしていく方向で介護保険サービス事業者連絡会からもプロジェクトチームに参加し、障がいだけではなく、介護も一緒に行うようにしていくとありますが、今回介護保険サービス事業者連絡会に打診しましたところ、行事がいっぱい手が回せないという事で、予定としては、来年度は自立支援協議会の単独で行う予定になっております。単独で行う事は、来場者数に不安はありますが、事業所の現場を見て頂くツアーを組むなど、いろいろできる事もあると思えますので、福祉の仕事の素晴らしさをより多く伝えられれば、必ず就職に繋がってくると思えますので、就労支援連絡会、日中活動連絡会、相談支援連絡会、こども連絡会と各連絡会と協力して行っていこうと思っております。よろしくお願い致します。以上です。

(日中活動連絡会代表)

就職フェアについてですが、9月17日の中日新聞のこぼれ話のところ、就職活動という事で、事業所が人を募集するという事だけではなくて、障がい者の就職先はないかという事で就職フェアに来られた方もおり、今後検討していきたいと思っております。

防災の取り組みについては、各事業所に災害備品リストの確認した上で更新をしていくという予定ですが、この段階でリストの確認をするだけではなく情報共有をして、いかに助け合ったり活用していくのかなどを考えていければと思います。

学校との連携につきましては、12月14日に現段階で進路が決まっていなの方の行き場所について日中活動連絡会と就労支援連絡会が集まって、本人さん達の情報を得ながら受け入れられる先を見つけていければと思っております。

サービスの質の向上としては9月18日にサンビレッジの生活介護等の事業を見学させて頂きました。今後も、お互いのサービスの質の向上を目指して、事業所相互の見学会を実施していきたいと思えます。

サービスの質の向上ということで、今後就労系の自立や、日中系の自立など、どういう所が自立なのかという所を整理していく必要があるのかと考えていかなければなりません。以上、日中活動系連絡会の報告です。

(手嶋会長)

ありがとうございました。続きまして、相談支援事業所連絡会よろしくお願ひします。

(相談支援事業所連絡会)

今年も相談員の質の向上という所を目的にしております。参加している相談支援事業所は委託相談を受けております4法人の事業所と、主に計画相談のみ行っている事業所6事業所があります。相談員の人数としては17名となっております。

昨年度の1月17日に、研修会を行っております。障害者総合支援法の一部改正で、研修会を行いました。その際、グループワークも行っております。モニタリングの実施標準期間の見直しという所が改正で上っております、その事について、しっかり共通認識した上で、グループワークで情報交換を行いました。7月2日の勉強会ですが、モニタリングについてと、モニタリングの頻度を深めてしっかり相談体制を構築するという所で報酬請求についての説明がありました。第3次小牧市障がい者計画や、第5期小牧市障がい福祉計画、第1期小牧市障がい児計画の中で、相談支援が大きく関わっている所を、各相談員の方にも共通認識してもらえようように小牧市役所からしっかりお伝えして頂いた勉強会でした。

今年も、年4回の事例検討会を行っていきます。そして、年2回の研修会も実施しております、残り後期にもう1回実施予定になっております。事例検討会については、現在4月26日と、7月2日の2回を終えております。1回目については、育児、療育が弱い、児童相談所が介入している父子家庭のケースを事例に検討いたしました。2回目は入所施設を希望している、身体障がいの方のケースを行いました。なかなか入所できる施設がないという所から本人様が、相談員の介入を拒否されていたというケースでした。その事について全体で支援の方法や、打開策をどうしていくかという所を話し合い、相談員の質の向上となるようなものになりましたので、今後も相談員が個人で抱えている困難事例を定期的に事例検討に出していき、力をつけていこうと思っております。

相談員の質の向上に加えて、各関係機関との連携というのが、大きな課題となっており、今年度から随時開催されている各連絡会へ相談員が参加していくようにし、課題の抽出をしていこうという事になってはいますが、現段階ではそこまでいきわたっていません。しかし、相談支援との連携という所でいろんな意見を頂くことができました。9ページのその他の事業計画進捗状況の中で、7月11日に訪問系サービス事業所同士の意見交換会を相談支援専門員との連携というテーマで行いました。グループワークを行って行く中で、相談支援専門員が立てるサービス等利用計画書というのが、随分各事業所に浸透してきたという実感が得られるグループワークになったのですが、その一方で一部の事業所の方から計画の内容が分かりにくいというような、貴重なご意見も頂きました。これを受けて、サービス等利用計画と、事業所が立てている個別支援計画書は整合性を持っていないなければならないという所で各訓練機関にアンケートを取らせて頂き、いろいろなご意見を頂くことができました。そこから出てきた課題としては、しっかり連携をとるという所では、相談員が立てているサービス等利用計画書と、各事業所で立てている個別支援計画書がしっかりサービス管理責任者と、相談員とでやり取りできていて、関係する担当者が集まって計画の内容を共有する支援の方向性を共通認識する場（担当者会議）の開催がまだまだ不十分ところがあるのではないかとという所に至りました。そのことを相談支援連絡会で相談員に伝えて行くと共に、各事業所の方にも認識して頂けるように進めていきたいと思えます。

残りの研修としましては、サービス等利用計画を立てるにあたっての研修を行ってこうと思えます。相談員が初心を振り返るような研修内容となります。基本的な姿勢、合わせ方、アセスメントの重要性を学ぶ研修を予定しております。

こうして、相談員の質の向上を目的に今後も連絡会として行っていく予定です。日頃から積極的に各関係機関にしっかり働きかけて、利用者さん一人一人のケースに対してしっかりと対応できる力をつけていきたいと思えます。

今年度より、1ヶ月に1回ペースで委託相談支援事業所が集まって話し合いを設けております。今まで話をしてきましたような、他機関との連携についてを話し合ったり、医療的ケアを必要とする児童を持つ保護者の方との交流会がありました。相談支援の啓発やPRとして、地域で困っている方の一番近い存在の民生委員さんや、児童民生委員さんへのPR活動を行いました。地域の高齢者のサロン活動に、巡回相談として一部の地域で試みました。

65歳を迎える利用者様がスムーズに介護保険に移行できるようにするにはどうするかという事で、地域包括支援センターとの連携が必要になってくるという課題も上ってきています。以上で報告を終わります。

(手嶋会長)

ありがとうございました。それでは子ども連絡会の報告をよろしく申し上げます。

(子ども連絡会代表代行)

8ページをご覧ください。ネットワークの構築のところで、関係機関の情報共有、課題整理、連携という事で2月7日に、平成29年度第4回子ども連絡会で、市内の児童発達支援、放課後等デイサービス事業所がお互いに行っている内容や、工夫している事などを共有致しました。それぞれの事業所や、機関の特徴や工夫を知り、学ぶことができいております。5月22日に、平成30年度第1回子ども連絡会で、情報交換、意見交換を行っております。各分野に分かれて、5つの項目について意見交換をしております。

一つ目に、外国人へのサポートということで、親御さんが外国人の方が多いという事もあり、いろんな事に説明するのが難しいという意見が出ておりました。特に、契約時に書類などの翻訳や、通訳等があると良いという意見が出ておりました。

二つ目にボランティアとの交流について、絵画等の先生に来て頂いたり、地域を交えてのお祭りを開いて、ボランティアで参加して頂くなどがありました。

三つ目に地域の活動への参加の仕方については、地域の公園に、事業所が出かけたり、プラネタリウムに行ったり、地域の祭りに参加したり、事業所が自ら公民館を借りてイベントを実施している事業所もありました。

四つ目の医療的ケア児への対応については、医療的ケア児の受け入れ先が少ないという話が出ており、他市町に行くしかない状況の方もいるという課題があります。

五つ目に災害時についてですが、他市に出掛け地震や台風の体験を行ったという事業所がありました。また、送迎を行っている事業所が多く、大雨警報だけでなく、浸水情報や通行止め情報が必要ではないかという意見がありました。

「はじめのいっぽ」の作成では、育ちに心配のあるお子様をお持ちの方々に使って頂く冊子を平成27年度に発行したものを元に、編集会議を行っており、現在進行中です。7月3日と、9月10日に編集会議を行っておりますが、保護者の皆さんを中心に、保健センター、市役所、あさひ学園、そして事務局を交えて編集会議だけではなく、メールでのやり取りを行いながら各機関の内容確認を行っております。4年に1回の改定という事もあり、内容もかなり変わっている所もあり、一つ一つ確認しながら進めておりますが、現在一校目を印刷業者に提出しています。3月発行を目指して動いております。

事例検討会・研修等については、3月8日に、自立支援協議会の委員をして頂いております、越後谷先生を講師にお招きして、「発達障がいの治療について学ぶ研修会」を実施しています。40名の皆さんが参加して頂きました。この研修では、薬の服用する事のメリット、デメリット等を学びました。今年度の研修に関しては、今後もいろいろと取り組んでいけるように予定をしております。

補足ですが、今年度第1回目のこども連絡会で事業所同士の連携を図りたいという意見がありましたので、10月29日に事業所同士の情報交換会を行おうと思っております。以上で、こども連絡会の報告を終わります。

(手嶋会長)

ありがとうございました。続きまして、その他の事業計画進捗状況の報告をお願いします。

(事務局)

9ページをご覧ください。小牧市障がい者計画では、障害者福祉サービス等の充実、相談先の周知、障がいに関する理解の促進という事で上げさせて頂きま

す。障害福祉サービス等の充実では、訪問系サービス事業所同士の意見交換会の取り組みの中で、相談支援専門員と、ヘルパー、訪問看護、訪問リハビリの事業所と情報交換会を行いました。7月11日に行い、参加者は24名でした。相談支援専門員が立てるサービス等利用計画が分かりにくく、個別支援計画書に繋げる事ができないという意見がありました。その事で、相談支援専門員の研修に繋がっていく事になりました。

二番目の相談先の周知については、毎年作らせて頂いています福祉サービス事業所一覧の作成、発行と今年度は周知活動もしております。民生委員さんや、地域の方に広く相談支援事業所、障害福祉サービス事業所を知って頂く事をねらいとしております。市内の6地区の民生委員・児童委員連絡協議会に相談支援事業所が回らせて頂き、PRをさせて頂きました。また、北里地区、西部地区のサロンに障がいの相談支援事業所として伺い、PRをさせて頂きました。その中で感じたことは、知的や精神障がいの方を知られていないのが現状でした。今後の課題で、考えていかなければならない所です。

障がいに関する理解の促進では、ヘルプマークの配布という事で、市役所にあるのですが、義足や人工関節、内部障害や難病、精神障害、知的障害など見た目では分からないが障がいがある方に対して、ヘルプマークという物を配って、障がいがあることを分かって頂き、配慮して頂くということで市役所にて配布しております。

10 ページをご覧ください。進捗状況としては、10 月の時点での事と、11 月以降の事も、予定が決まっている所は入れさせて頂きました。特別支援学校との意見交換会、情報交換会に関しては12月14日で決まっております。

相談支援連絡会の所でお伝えし忘れていた事で、3 ページをご覧ください。

それぞれの相談支援事業所の方で、親亡き後や、身元保証人、成年後見人の話が上りましたが、この中で尾張北部権利擁護センターが開設されて、実際に相談させて頂いた実績を9月19日現在で上げさせて頂きました。ご覧ください。事務局からは以上です。

(手嶋会長)

ありがとうございました。それぞれ連絡会の方のご報告、相談支援のご報告をして頂きましたが、それぞれご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

(越後谷委員)

最近、小学校、幼稚園、保育園にて精神障がいのある児童たちで現場で困っている先生がいるなと思いました。こども連絡会では先生が入るところではないのでしょうか。現場の先生方へのサポートがどんなものかと思いましたが。

(こども連絡会代表代行)

こども連絡会では、保育園の先生や、特別支援学校の先生方に参加して頂いております。

(越後谷委員)

特別支援学校ではなくて、地域の学校の支援先生方は来られていますでしょうか。

(こども連絡会代表代行)

来られていません。支援学級の先生は参加されていませんが、連携は取れる体制にはしております。

(越後谷委員)

ありがとうございました。

(角田委員)

資料について確認させて頂きたいのですが、相談支援事業の表で平成30年1

月から7月までの数字と、前年と表記してありますが、これは前年同期でよろしかったでしょうか。

事業実績の上げ方について、確認したいのですが。

(事務局)

今回の集計機関につきましては、自立支援協議会が行われる期間ごとの事業評価をしていくことで、年間をまたいでしまいますが、1月から7月までに行われた期間の事業を報告させて頂き、評価をして頂くというような方法で行っております。

(角田委員)

年度ではないという事ですね。ありがとうございます。

(鵜野委員)

今までの報告の中でも、就労支援連絡会や、こども連絡会につきまして学校の方も参加しております。こども連絡会では性に関する課題についてなかなか踏み込んでいく事が難しいとは思いますが、それぞれの年齢に応じていろんな課題があるという事で、また、性の研修に取り組んで頂けるとありがたいなと思いますし、現実には学校レベルでいろんな課題を抱えながらやっておりますので、今後も期待をしております。

医療的ケアについてのキーワードが出ておりましたが、学校の方におきましても、国の方からも医療的ケアについていろいろな情報が流れてきています。愛知県の中でも、従来ですと私共のような特別支援学校だけで動いていましたが、一般の小中学校、高等学校のお子さんにも対象にと広くという話題になっております。このような会議であったり、保健所関係の所が窓口になって医療的ケアに関してあちこちから声がかかっている、これが全部声がかかるとどこまで対応できるかというのが心配ですが、そのような動きが各地で行われているという事を気にしている状況であります。また、情報があれば教えて頂きたいと思います。特別支援学校の情報で言いますと、今、愛知県では「つながりプラン」というキャッチフレーズで県の特別支援教育推進計画を策定しておりますが、今年度で区切りで来年度以降「つながりプラン2」という事で、新しい計画を立てて進めています。現在パブリックコメントが見れる状態で、地域のニーズにあった障がいの方の受け入れということで、愛知県ではおそらく初めてですが、西尾地区に知的障がい、肢体不自由の2つの障害児を合わせた学校が今後作られるという話があります。

地域の方のいろんなご意見を期待している状況でございます。

その他医療的ケア児については、自発呼吸のない呼吸器をつけた状態のお子さんの受け入れだったり、高等学校でもいよいよ通級指導という制度が始まって、今試行という事で愛知県でも数校実施しております。

こども連絡会では、いろんな関係機関の方が集まっているという事で、個別の件は難しいかもしれませんが、小牧市で言いますと、教育委員会の進路指導主事の先生方、小中学校にも特別支援教育コーディネーターがごいます。また、あゆみ相談という形で、先生方どんなことでもまず一方をいただければ、相談にのるという制度もごいます。

(手嶋会長)

医療的ケアについても踏み込んで教えて頂けたかと思えます。事務局はいかがですか、8 ページの進捗状況の一覧に医療的ケアについて、かなり踏み込んで情報提供頂いているので、第5期小牧市障がい福祉計画の64 ページに載っております、医療的ケア児コーディネーター及び、ニーズ把握の事が書いてありますが、ネットワークの構築の中の会議の中で、医療的ケア児の受け入れが少ないというニーズがありましたので、64 ページの計画に合わせて医療的ケアのお子さんについてのコーディネーター研修に行かれておりますし、ここで聞いたそれぞれのニーズも含めて分かりやすく項目を起こしておいた方がいろんな方の情報提供が集約しやすいのではないかと思いますので、一度ご検討をしてはいかがでしょうかと思えます。

(事務局)

はい、分かりました。ありがとうございます。

(手嶋会長)

今の状態ですと、64 ページの該当する医療的ケアが当たらない形になっているのもったいないので、よろしくお願いします。

(川島委員)

5 ページの就労支援連絡会で、活用しております障がい者の働くガイドブックで、ハローワークにいらっしゃる方で、A型就労支援事業所はどんなところがありますかというご質問を受けた時にこれを使って説明させて頂いたり、コピーを差し上げたりしています。9月に障がい者雇用支援月間があつてポスターを掲示させて頂きましたが、ハローワークは9月だけではなく、愛知県雇用促進月間でしたが、障がい者に対しての魅力がある求人が少ないという事で、今後どうしていけば良いのかという事を内部で話し合っております。求人票の表記も、

一つ加えて頂きたいという事があり、就労支援をすると見学できるか、実習できるかというのが質問の中にあって、見学可能かどうかという表示ができないかという事で、企業の求人募集をするところに投げたけたら、出来ますとの事でしたので、近日中に障がい者用の求人票に「見学可」と表示されるようになります。

現在 A 型に就労中の方で、一般就労を目指している方がいらっしゃり、ほとんどの方が、精神障がいをお持ちの方という事で皆さんにている所があり、正社員にこだわる、お給料にこだわるなど、なかなかマッチングが出来ず難航している状態です。ご本人だけで、来られる方もいてどういう経緯でここにいらしているのかというのが分からない事があるのですが、そういった時に、A 型就労支援の方や、就労移行支援の方など関わりのある方が一緒に来ていただけると我々は安心です。

5 月 31 日に実施されました就職フェアでは、熟年の職員と若手の職員二人で参加しましたが、雨だったので心配していましたが、意外と来場されておりました。

(手嶋会長)

ありがとうございました。話の続きですが、6 名就職できたという事ですが、来られた方の年齢や、未就業の方などでしょうか。成功に繋がった方はどのような方だったのででしょうか。

(事務局)

6 名の就職者の中で、正規職員が 1 名、パートが 5 名です。パート 5 名の内の 2 名が看護師です。介護保険サービス事業所の方に就職が決まったのが、3 事業所でその中の正規職員が 1 名で、パートが 4 名です。内 1 名が看護師です。障がい福祉事業所の方が、看護師 1 名パートで就職されました。

(手嶋会長)

来て頂いた、看護師は良いマッチングができたという事ですね。

(事務局)

そうだと思いますが、その後の事は確認しておりませんので、また確認したいと思います。

年齢の所は聞いておりません。6 ページをご覧頂きたいのですが、実施して気付いたことです。大学や専門学校や、短大など福祉系の所にたくさんチラシを配布しましたが、残念ながら学生の来場者が少なく、主婦の方が多かったので、

若い主婦層の方が看護師や、介護職の資格を持っていて就職に繋がったと思われます。

(手嶋会長)

アンケートの年齢層を見ても、20代、30代がピークを迎えているので、きっと子育てでお仕事を引かれて、もう一度という感じで来られる方がいるのだなというのが分かりますし、それ以降の年代も第二の人生をチャレンジしようかという事で来られていると思いますね。

(山本委員)

お一人お一人の事を考えると、質の部分が一番重要な部分だと思いますので、モニタリングなどに関してもそうですが、市としても質という部分を改めて見直していこうと思います。

(網川アドバイザー)

医療的ケア児の支援について提案ですが、本日医療的コーディネーターの養成研修を行っていますが、小牧市の場合は医療的支援の協議の場をこの協議会の場で行うという事になっておりますので、せっかく2名の方がコーディネーターの資格を取得されるので、活用の仕方や協議の場についても今後検討を進めていく必要があると思います。医療的ケア児コーディネーターの方がどのような事を受講してきたか、身につけたのかという事をアピールする場が必要ではないかと思っています。少なくとも、相談支援事業所連絡会の中では、コーディネーターの方にどのような研修だったのかというものを報告して頂いて、共有する必要があるのではないかと思います。医療的コーディネーターの中で、ソーシャルワークの機能や、ネットワーク形成の機能は医療的コーディネーターの方だけにお任せではなくて、委託相談支援事業所の方々も協力してやっていくことだと思うので、是非コーディネーターの方が学んできた事を共有して一緒に推進できればと良いのではないかと思います。

(手嶋会長)

ありがとうございました。

(北澤委員)

2ページの数字ですが、前年とありますがこれは前年度という事でしょうか。

(事務局)

前年の1月から7月です。

(北澤委員)

今後は、前年同期と表示して頂けるようお願いします。

いろいろな意見が出て、良い会議になったと思います。今回の意見を参考にさせて頂きたいと思います。

(川崎委員)

福祉の人材確保という事が大きな課題です。日中活動系連絡会の方が中心となって就職フェアを行って頂きましたが、人材がいればもっともっていろいろな事ができるのになど悩んでいるところです。福祉の仕事を知らない方が多いのではないかと思います。福祉の仕事は、こんなに楽しいよ、やりがいがあるんだという事をもっと一般の方に知ってもらえるような仕組みを考えなければいけないのかなというのがあります。市のバスなどを出して、福祉サービス事業所などの施設見学会を開いて市民の方に知って頂き、楽しい事、やりがいのある事を少しでも知って頂く事で、就職にも繋がるのではないかなと思います。

どのような形で、第二弾の就職フェアを行う事は分かりませんが、場所の問題やいろいろな問題があると思いますが、是非引き続き人材確保のために協力していきたいと思います。

(手嶋会長)

ありがとうございました。

(清水委員)

施設側で地域移行に関しての努力はしておりますが、なかなか進まない所が現状です。重度の方にこそ、施設での対応という部分が機能としての役割りをしていると思いますので、なかなか行き場所がないという事があります。一方、自立度の高い方に関しては、地域移行を進めていこうとしますと、どこで誰と生活するか、ご本人の意思を聞き出しながら対応していくことも行ってきましたが、ご家族の反対などもあり、どちらかというところ、本人支援よりも家族支援になってしまうというケースもありますので、もうひと押し行政に関わってもらって、認定調査の時にもう少しご本人にヒヤリング等で、地域移行に向けての可能性を探って頂けると、施設側から送り出せるのではないかなと思いますので、その働きかけを綱川アドバイザーにお願いしたいと思っております。

以上です。

(手嶋会長)

ありがとうございました。是非前向きにお願い致します。

(吉田委員)

9 ページにあるように、相談先の周知というところで、7月に頂いた障害者福祉サービス事業所一覧がすぐに役立ちました。相談なども受けて、尾張北部権利擁護センターも案内する事ができました。

私たちは常に現場にいる民生委員ですので、そういった情報を得るという事は非常に大事な事です。これからも連携をとっていきたいと思います。

昨年、民生委員の100周年が開かれました。原点は貧困、生活困窮者からできた制度です。「フードドライブ」という事をはじめました。小牧市6地区の民生委員の組織がありますが、まずは北里地区より「フードドライブ」を旗揚げさせて頂き、小牧市社会福祉協議会内の善意銀行を通して、生活困窮の方に食料の配布を行っております。今後も、他の地区も始めていくと思います。

生活保護を受給しておられる方には該当しておりません。

もし、自宅に残っている食料などがございましたら、生活困窮の方に寄付をしていただければと思います。皆様にこういった活動を知って頂ければと思います。

(手嶋会長)

ありがとうございました。それでは、議題3に移ります。

報告等についての協議、意見交換という事で、2点こちらでご用意させて頂いております。一つ目が、小牧市障がい者活躍支援事業 障がい福祉懇談会、二つ目に、成年後見制度勉強会についてのご説明と、ご意見徴収という事でよろしくお願い致します。

(長寿・障がい福祉課)

障がい福祉懇談会についての報告をさせていただきます。市では今年度、障がいがある方が、いきいきと夢を持って暮らしていけるためには、どういった支援が必要か、求められている事は何なのかという事を当事者や関係者の方に聞いていくという風に取り組んでいます。それに関係して、「障がい福祉懇談会」というものを開催致しました。

9月1日、9日、16日の3回スケジュールで参加の皆様には通して参加して頂きました。ご参加頂きましたのは高校生以下のお子様と保護者様などで、3回ともご出席頂いたのは8名でした。内容としましては、親子で(関係者)夢についてお話しして頂きました。そして、それに向かっていくには本人や、周りの

方がどういう事をやっていかなければならないのか、どういう事を頑張っていかなければならないのか、周りの方のサポートはどういうものが必要なのかという事などを考えて頂き、最後に参加メンバーの前で発表して頂きました。

参加者からのアンケートがございますので、ご覧いただければと思います。

資料1として、障がい福祉懇談会のまとめとして、参加者が活躍できるように支援が必要なことをまとめると、先生、スポーツ選手、自衛隊、ものづくり、警察官、ゲームマスターといった将来の自立した生活に向けた就労を希望とする意見が一番多かったです。

希望を叶えるためには、勉強や体力といった就職するために必要とされる能力を身につけることが必要であり、そのための力を支援したり、就労するために必要な情報が的確に伝えられるような相談体制の充実が必要であると感じられました。

重度の障害がある参加者からは、「普通の生活、元気な生活を送る、家で家族と生活する。」という、誰しもが望む基本的な生き方自体が希望でありました。

この希望を叶えるためには、家族の支援だけでは限界があるため、福祉サービスの充実が必要になるのではないかと感じられました。

「障がいがあっても普通の人間だとわかってもらいたい。」という意見もあり、家族以外の支援者、理解者が増えるため、障害者理解の促進、障害者差別の解消などの取り組みも必要だと考えます。

いろんな意見がございましたが、市としてはこの懇談会を通して出た皆様のご意見や、考えを今後の障がい福祉サービスに活かしていければと考えております。以上です。

(手嶋会長)

ありがとうございました。この懇談会にご協力頂きました、川崎委員に一言頂きたいと思っております、よろしくお願い致します。

(川崎委員)

第一回目に私が、少しお話させて頂きました。障がい者も普通に暮らせるというか、できる事をやろうということで就職に繋がったという、実際の例をお話しさせて頂きました。その後は、山本先生がグループワーク通してそれぞれの夢を聞き出してくださった良い会だったと思います。市長さんも参加して頂いておりました。

(手嶋会長)

ありがとうございました。それではもう一点、成年後見制度勉強会について

よろしくお願ひ致します。尾張北部権利擁護センターの方からよろしくお願ひ致します。

(尾張北部権利擁護センター)

市の障がい者計画の中で、権利擁護の推進という所で大きく関わっていきたいと思っています。

おかげさまで、民生委員さんをはじめ、地域の皆さんのご支援を得て順調に進めているというように考えておりますが、その中で私どもの対象となる方々というのは、認知症の方、知的障がいのある方、精神障がいのある方で、小牧市の数字を言いますと、認知症の方が1,722名、18歳以上の知的障がいの方の手帳を持っている方が801名、精神の手帳を持っている方が991名という事で、いずれも平成29年度の数字ですけれども、認知症の方が1,722名、障がいのある方が1,792名という事で、1対1の関係ですが、私たちの相談ですと4対1の割り合いで、高齢者の方の相談の方を多く受けております。今年度はこれまでに、10件市長申立てのお手伝いをさせて頂きました。その内、8件が高齢相談、2件が障がいの相談でした。これは私たちの努力不足だと思いますが、是非障がいの方もセンターのご利用を頂きたいと思ひます。

その中で、福祉サービスの職域の相談員の皆さん、そして職員の皆さんが権利擁護の有効なツールの成年後見制度そのものについて、基本的に理解をして頂きたいと考えており、そのための研修会となっております。11月10日午後2時から4時まで扶桑町で行います。是非、障がい福祉分野の方にもご参加頂きたいと思ひております。ありがとうございました。

(手嶋会長)

ありがとうございました。本日の予定しておりました議題につきましては、以上となります。次回の日程について、事務局の方からよろしくお願ひ致します。

(事務局)

今回は来年の2月25日(月)午後2時からです。場所はふれあいセンター3階の大会議室となります。よろしくお願ひ致します。

(手嶋会長)

ありがとうございました。

それでは、長時間に渡りまして、ご協力、ご協議頂きまして誠にありがとうございました。

(事務局)

手嶋会長どうもありがとうございました。本日、皆様のそれぞれのお立場から貴重なご意見を賜りました。すぐ取り組めるもの、来年度にいかしていきたいものいろいろ貴重なご意見だったと拝聴しておりました。次回は第3回目の所で、今年の8月から12月、1月くらいまでの所の事業報告をさせて頂きつつ、また次のステップに向けて検討をお願いしたいと思います。長時間に亘りまして、ご協議頂きまして本当にありがとうございました。本日の会議はこれで終了させて頂きたいと思えます。ありがとうございました。